

# 神戸市における 健康危機管理対策

感染症対策を中心に……

神戸市保健福祉局健康部  
健康危機管理対策担当  
山崎 初美

# 神戸市保健師活動の背景と体制

- 面積 : 552.8 km<sup>2</sup>
- 人口 : 153万6千人(H.27.6.1現在)
- 保健所1か所、本庁に設置
- 9行政区(1支所、1分室)に  
市町村保健センター機能
- 保健師 : 171名(H.27.4.16現在)  
区 : 133名  
あんしんすこやか係・こども保健係に配置  
(地区分担と業務分担を併せ持つ)
- 本庁他関連部署 : 38名



国内初！

## 平成21年5月新型インフルエンザ 渡航歴のない患者の発生

- 5月16日市内の高校生 A/H1N1感染確定
- 5日間で88名の感染者を確認  
感染拡大防止：全市的なイベント中止  
休校措置
- 5月末に、集団的な患者発生は一旦終息  
「ひとまずあんしん」宣言  
第2波に備えた対策

# 発生直後の課題

# 何が起きたか？

## 電話相談の急増

市民の不安に応えるので精一杯 (ピーク時1日約2,700件超)  
専門職不足(QA作成し事務職員も動員)  
相談内容の集約・分析が同時進行できず

## 発熱外来に受診者集中

医療現場の混乱

## 迅速な疫学調査が困難

高校と日頃の連携が希薄であったため、調査が円滑に進まず

## 本庁・保健所の統括機能・情報発信に関わる人員不足

体制の構築・取材対応・電話対応・疑い事例の搬送に追われ、  
区役所への情報提供が困難

## 感染症発生動向調査だけでは、患者発生の実態がつかめず

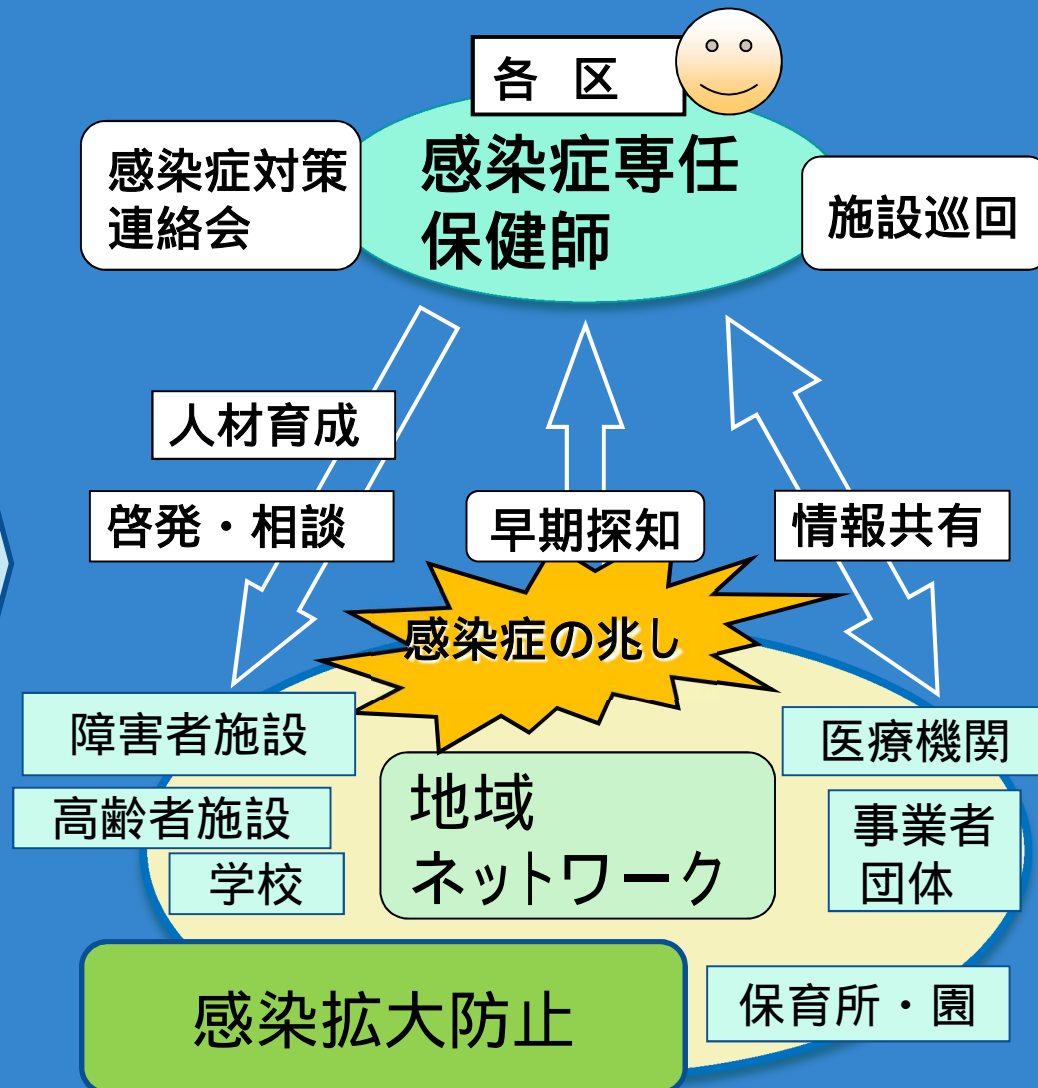
2009年  
新型インフルエンザ  
初動対応検証による  
提言

神戸モデル  
(早期探知地域連携システム)  
取組み開始

感染症発生を早期探知  
するしくみが必要

感染症早期探知、  
感染拡大防止には  
地域ネットワークの  
構築が必要

地域組織の自助力・  
共助力の向上が必要



# 感染症対策の体制強化(保健師)

保健所の機能強化

本庁

健康部

地域保健課

課長級 1  
係長級 2  
担当 3

予防衛生課

係長級 2  
担当 1

区を総括する本庁部署  
の明確化

体制強化

課長級

課長級  
(事務1)

+

区 (9区1支所・1分室)

子育て支援係

あんしんすこやか係

関連する施設・団体・市民をつなぐ  
調整・パイプ役

体制強化

感染症対策専任保健師  
(11名)

+

# 感染症対策専任保健師の活動効果

## 【地域巡回】

- ・窓口が明確になり情報が入手しやすくなった
- ・平時における施設の実態を把握し、感染リスクを分析することができた
- ・実態把握から、対策や啓発、マニュアル作成に反映できた
- ・情報が届きにくい民間施設等への支援ができるようになった

## 【感染症対策 実務者会の開催】

- ・関係機関の実務担当者間で、発生情報や対策を共有することにより、感染対策への意識の向上やスキルアップへつながった

# 感染症対策専任保健師の活動効果

## 【早期探知】

- ・施設、学校・園との連携により、リアルタイムで発生の兆しを探知できるようになった

## 【探知した発生情報の集約・分析・還元】

- ・発生前の事前相談につながり、感染予防対策を講じることができた
- ・個々の施設の発生情報を地域情報として還元することで、施設間の横断的な連携による予防対策につながった



# 感染症対策専任保健師の活動効果

## 【地域連携ネットワークの構築】

- ・これまで連携の薄かった民間の学校・園や施設と公的施設等が区を拠点として横断的に連携する基盤ができた

## 【専任保健師による実務者会の呼びかけ】

- ・自主的な連絡会に発展し、相互連携の強化につながった

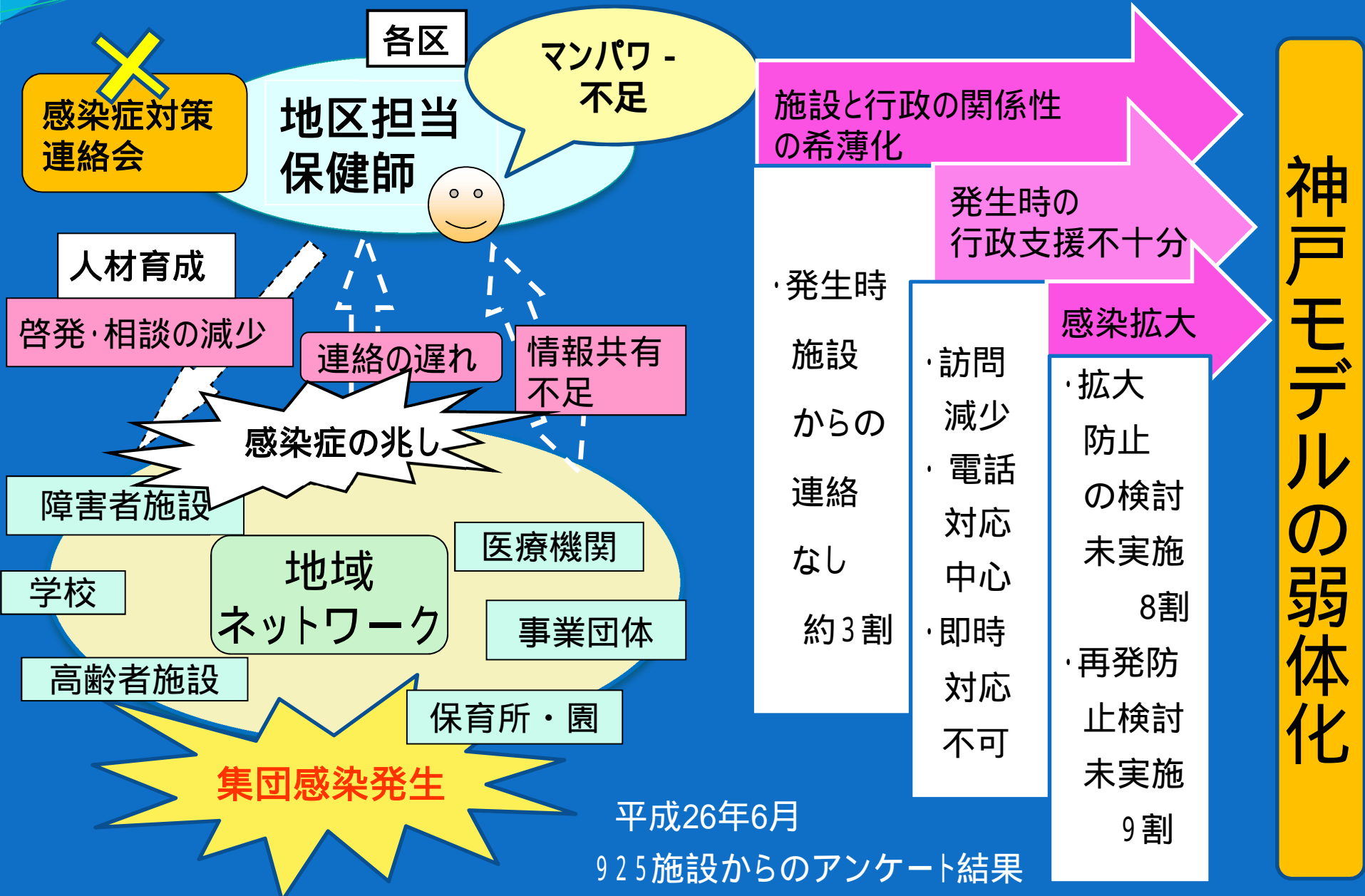
## 【全市的な課題等の情報共有】

- ・専任保健師が足で稼いだ情報により、実態にあわせた対策に反映できた

# 感染症対策専任保健師の配置解消

- ・平成24年3月末 「神戸モデル - 早期探知地域連携システム - 」が構築できたとの一定の評価により、感染症対策専任保健師(11名)の配置解消
- ・平成24年度より各区に配置されている担当保健師が、神戸モデルのシステムを引き継ぐ  
(専任配置廃止)

# 感染症専任保健師配置解消から3年経過

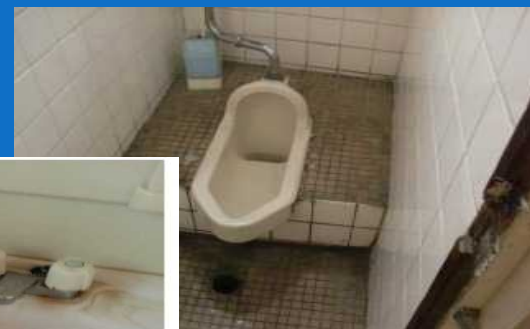
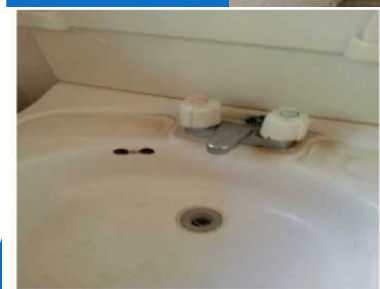


## 感染症訪問指導員の創設

保健師等の資格者で  
常勤の仕事をしていない方



平常時より  
こども関係施設・高齢者施設  
障害者施設など  
社会福祉施設を巡回



消毒も  
きちんとして  
います！



電話で確  
認する  
と...

しかし、実際は？

# 感染症訪問指導員の役割

施設の実態把握

施設の現場に応じた  
助言・指導

ユニット内部



ユニット全体の  
清潔保持の確認

液状石けん、  
ペーパータオル  
の設置の確認



手洗い  
チェック!

手洗い場



トイレ



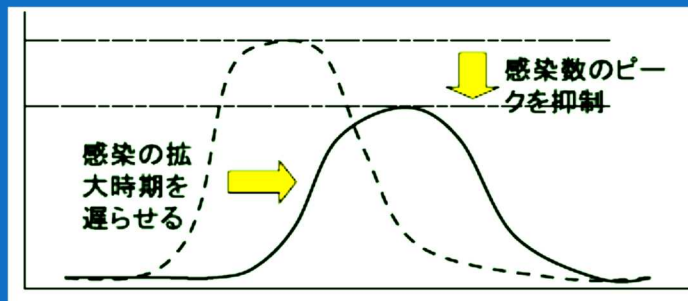
清潔保持の徹底

汚物処理室



清潔保持の徹底と  
汚染物(血液・尿・便等)  
の処理

早期探知の  
意識づけ



# 感染症訪問指導員導入による 期待される効果

- ・ 社会福祉施設等における平時の感染症対策の実態を把握することができる。
  - 対策の検討・効果のある啓発
  - 集団発生時の行政からの支援体制についての判断材料
- ・ 神戸モデル（早期探知地域連携システム）の浸透
  - 感染症の早期探知
  - 集団発生の拡大防止による重症者発生予防

# 行政保健師に期待されること

感染症訪問指導員から訪問結果の報告を受けて・・・

## ・共通課題を抽出

- 区や市全体の傾向・対策などを早い時期に提示できる
- 感染症対策ができる人材育成ができる

## ・早期探知後、施設に応じた適切な対応が円滑にできる

- 感染症が複数発生した場合の対応が施設の個別性に応じて対応することができる

# 神戸市での危機管理に関する 計画と健康危機との関係

神戸市  
地域防災  
計画

神戸市  
国民保護  
計画

個別事案  
危機管理  
計画

自然  
災害

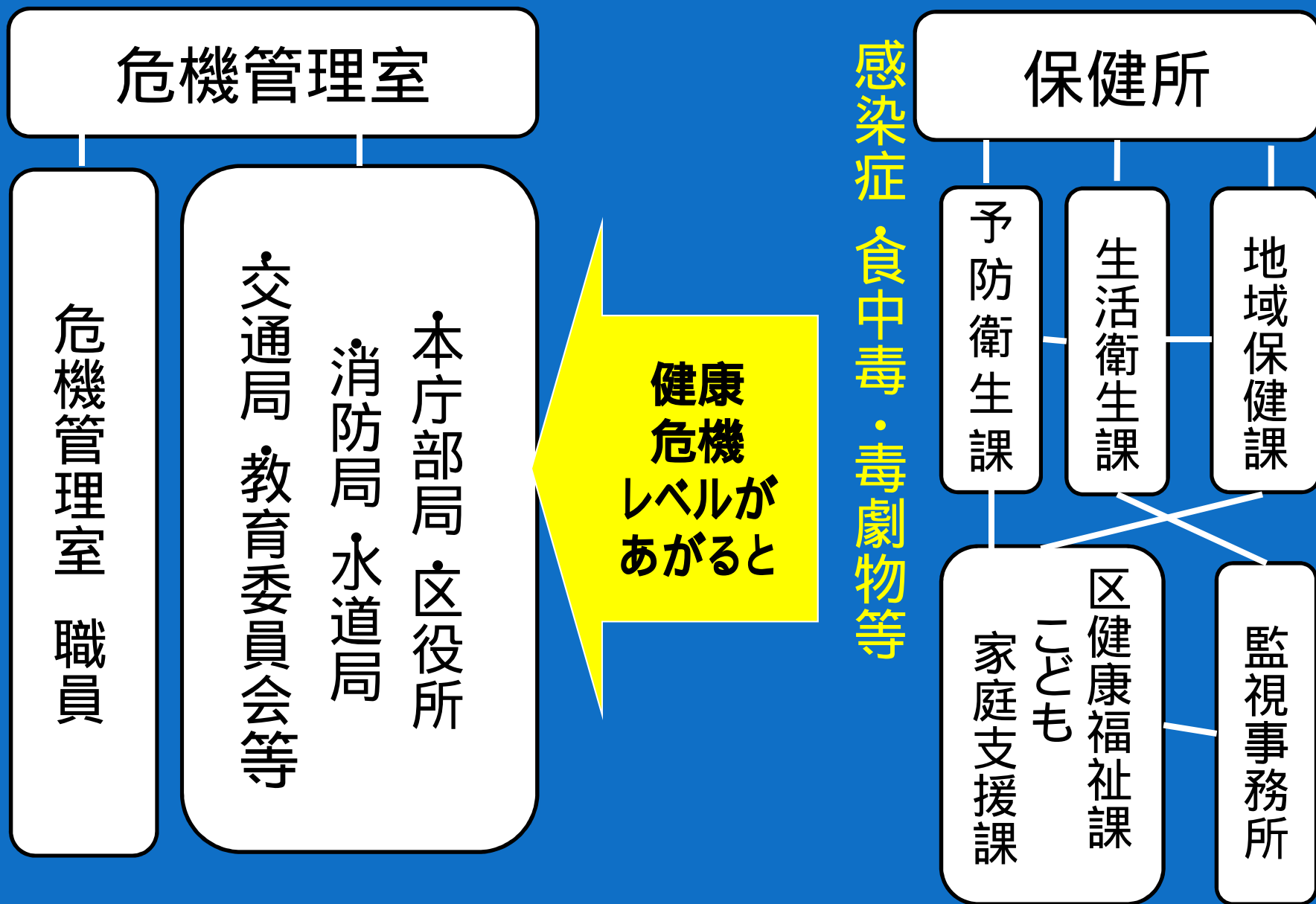
事故  
災害

緊急対処事態  
武力攻撃事態  
等

新型インフル  
エンザ等対策  
行動計画等



# 危機管理・健康危機管理 実施体制



# 健康危機レベルに応じた保健師の役割

レベル

↑

↓

低

高

- ・担当所属における業務の推進
  - ・健康危機レベルが上がった際の感染症対策について情報提供
  - ・健康被害を最小限にするための事前の準備(地域ネットワークの構築等)
- 
- 対策本部への現場の情報提供
  - 近い将来を予測し、具体的な対策を提案する
  - 所属業務を超えた対策の実施

# 健康危機管理を担うにあたっての 保健師の役割

- ・ 専門職としてのスキル

- 医療と福祉の両方を理解し、対応できる

- ・ 地域を知っている強み

- 市民の行動、不安等の予測ができる

- ・ 行政職としてのスキル

## 【補完するもの】

- シミュレーション研修

- マニュアルの見直し、確認

- 異所属間の情報共有

# 健康危機管理を担うにあたっての 保健師の役割

- 保健福祉分野以外の部署の考え方・動きを知っている保健師が少ない。

危機管理 行財政 産業振興 みなと  
環境 消防 水道 教育委員会 等

## 【補完するもの】

- 担当業務以外の関連業務の理解
- 関連業務従事者との信頼関係の確保
- 関連業務従事者の関係者の把握

# 健康危機管理における

## 他職種・他機関との連携（事例）

例示：MERS対策……発生前に

- ・海外を含めた感染症発生状況の把握
- ・感染症指定医療機関、一般医療機関との連携
  - 対策についての情報共有・検討
  - 患者発生時の連絡体制の確認
  - 疑い患者の対応についての検討・確認
- ・県、検疫所との連携
  - 通知の確認、対応の確認・調整
  - お互いが入手している情報の共有

# 健康危機管理における

## 他職種・他機関との連携（事例）

例示：M E R S 対策……発生前に

- ・把握した情報の組織および関係者間で共有するため、共通で使用できる資料作成、情報提供

- 基本1枚で病気の特徴、予防策、発生時の対応がわかるようにした。

行政機関(市役所内部・教育委員会)  
医療機関、旅館業等

- ・議会对応等の連携

- 保健福祉局、危機管理室、みなと総局等

# 健康危機管理における 保健師の課題と今後の対策

- 1 . 緊急時の連絡が円滑に取りあえるための、顔の見える関係づくりの機会の減少
  - 目の前のニーズにきちんと応え、短期間での信頼関係の構築に取り組む。
- 2 . 地域に入り、事実を見て対応する時間の減少
  - 目で確認する意識を継続させる。  
組織風土の確立
- 3 . 健康危機事案のリスクに関する予防対策の認識理解を得て、予算・人材を確保することの困難さ
  - あきらめない。プレゼンテーション能力の向上

# 健康危機管理における 保健師の課題と今後の対策

4. 危機管理事案の特性『初めは不明な点・あいまいな点が多い』中で、医療機関や市民・マスコミ等においても過剰に恐れがちになる。一定の医療機関に負担が偏ったり、差別偏見等風評被害が起こりやすい。
- 医師会等と連携し、繰り返し情報の共有を図り、医療体制が確保できるようにする。
  - 情報は複数のルートから入手し、その時点での正しい判断ができるようにする。
  - わかりやすい情報提供に心がける。



# 健康危機管理における 保健師の課題と今後の対策

- 5 . 担当業務量・種類の増加により、予防活動に係る時間の確保が確保しにくくなっている。
  - BCPを意識しながら、常に業務整理を行う。
  - 組織として求められている業務を意識する。
- 6 . 人材育成
  - 潜在医療職の活用
  - 保健福祉関係者への研修 等
- 7 . 分散配置している保健師について、感染症にかかる危機管理時の人員体制の調整方針が不明確
  - 危機管理レベルに応じた体制と指揮命令系について明確にする

ご静聴ありがとうございました

